

「ゴミ箱」

昨年行われたサッカー・ワールドカップ。ドイツやスペインといった強豪を破った日本チームの活躍が大きく取り上げられた。さらに、カタールまで応援に行った多くの日本人サポーターが試合後の客席でゴミ拾いしたことも話題となった。試合後、すでに多くのサポーターが後にした客席で日本のユニホームを着たサポーターがビニール袋を持ち、足元に散らばったボトルなどのゴミを集めていったという。海外では賞賛の声や、異文化として様々な取り上げられ方をしたようだ。

コロナ禍の中、「外飲み」という言葉がよく使われるようになった。コロナ対策で飲食店の営業時間が制限され、店から出た客が、駅の周辺で飲酒する行為である。翌朝、駅前には酒類のビンやカンが散乱するようになったともいわれている。ゴミ箱に捨てればいいと言いたいところだが、今、都内にはゴミ箱をみかけることがなくなってきた。捨てたくても捨てる場所がないのだ。

そこであがる疑問は、「街にゴミ箱は少ないのになぜか」ということ。誰もが一度は、ゴミ箱がなくて困った経験をしたことだろう。コンビニの店頭には大きなゴミ箱が設置されていたが、これもどんどん少なくなっている。今見かけるゴミ箱といえば、自動販売機の横に設置されているペットボトルや空き缶を捨てる専用のボックス。ただ、本来はその自動販売機で買ったものを捨てるためのゴミ箱だと思うが。また、映画館やコンサートホール、競技場などでは出口にゴミ箱を設置し、座席付近にゴミが置きっぱなしにならないようにしている。

日本を訪れた外国人の不満の一つに「ゴミ箱の少なさ」が挙げられるという。ネットで調べてみると、今から28年前に起きた地下鉄サリン事件以降、テロ対策を名目に首都圏を中心に街中のゴミ箱は閉鎖・撤去されていったそう。また、ゴミの定期的な回収などには人件費がかかる。ある資料では、駅前3つのゴミ箱の維持費に年間1800万円かかるという。一旦撤去されたゴミ箱を、再び設置するのは難しいだろう。ゴミはその場で捨てる場所がなければ、自宅に持ち帰る。各自治体のルールに従って、きちんと分別して捨てれば、一部は資源となる。

2月17日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1から100までの整数のうち、3で割っても4で割っても1余る数を合計すると、いくつになりますか。